

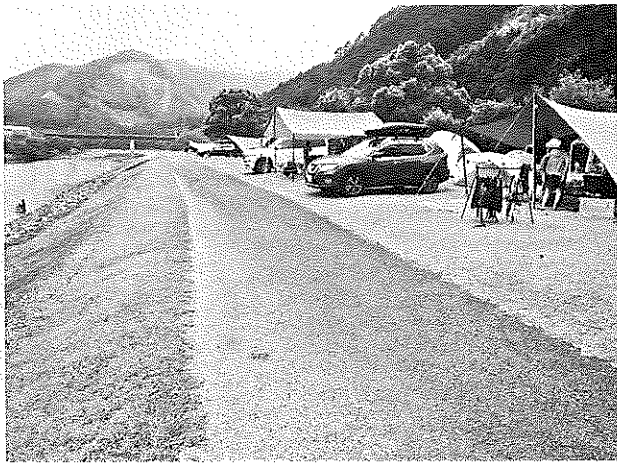
22年連続で黒字計上

キャンプ イン海山 2021年度決算と利用実績

紀北町は便ノ山の町間の天候不良の影響を受け、コテージとキャンプサイトの利用者、の2021年度収支決算と利用実績を公表した。

21年度は新型コロナウイルスの感染拡大による臨時休業や利用者受け入れ制限、盆期

減の1万9442人。利用者数は前年度に比べ600人(3%)



オートキャンプ客で盛況のキャンプイン海山(紀北町便ノ山で)

使用料など売上収入は29万円(0.5%)減の5536万円、支出は15万円(0.3%)増の4557万円。差し引き979万円の黒字で、前年度(1024万円)に比べ4.4%の減。

新型コロナウイルスによる国の緊急事態宣言を受け、8月下旬から1カ月以上に及ぶ臨時休業(8月27日、9月30日)で売り上げは前年度を少し下回ったが、ランニングコストの削減で00年度から22年連続の黒字を達成した。利益の最高額は18年度の1207万円。

月別の利用客は8月が最も多い4952人、次いで7月4706人、5月2042人。繁忙期の8、9月(26日間営業)は盆期間の悪天と9月の臨時休業が重なり、利用客は前年度に比べ5310人(51.7%)減と大きく落ち込んだが、大型連休を挟んだ4、5月は、26日間臨時休業した前年度に比べ4倍強の3353人。例年利用客が少ない10、3月の閑散期もコロナ禍のキャンプ人気に定着し、前年度に比べ329人(5.4%)増の6467人と伸びた。

収入5536万円はコテージやキャンプサイトの使用料と雑入。支出はNPO法人ふるさと企画舎(田上至理社長)に運営委託の指定管理料2932万円、報償費1462万円(前年度比1.4%減)、備品購入費103万円、需用費や役員費54万円など。報償費は収入が目標準額3145万円を超える額の70%を同法人に還元している。

オープンから24年が経過し、施設の老朽化で修繕箇所が増加。21年度は林間サイトの修繕や施設内の木橋を改修、工事費630万円は前年度の町収益分を充てた。

キャンプイン海山は1998年にオープン。2007年度から町の指定管理でふるさと企画舎に運営を委託している。銚子川沿いのオートキャンプ場は敷地3万5千平方メートル、管理棟、コテージ15棟、キャンプサイト70区画(リバーサイト40、林間サイト30)のほか、炭火焼きハウスや炊事棟、トイレ棟、木工アート広場、芝生広場などがある。同企画舎は正社員3人とパ

ート8人の計11人。町商工観光課では「21年度も新型コロナウイルスの影響で利用者、売上額とも前年度を下回ったが、コロナ禍のアウトドアブームや銚子川の知名度アップでソロキャンプや冬場のキャンプを楽しむ人が増え、指定管理者の営業努力で家族連れを中心にリピーターも定着している。指定管理者と連携して銚子川の魅力づくりと情報発信に努めたい」としている。